

教員養成課程の大学生のエッセンシャル・クエスチョン生成スキルの育成

小山 義徳*

Effect of Essential Question Generation Training for Pre-Service Teachers' Questioning Skills

Yoshinori OYAMA*

This study analyzed the effect of pre-service teachers' essential questions generation training program. Preliminary survey developed "questioning belief scale", and analysis 1 examined the effect of the questioning skill program with the scale developed in preliminary survey. The result showed that the number of people successfully generated essential questions increased, and the participants questioning belief, such as "difficulty of making questions", changed. Also the participants become to think question generation in positive manner. In analysis 2, this study revealed that only participants succeeded in generation of essential questions changed questioning belief "difficulty of making questions". In summary, this study proved that showing "questioning model" to the pre-service teachers is effective method to promote their essential questions generation skill and changed their questioning beliefs.

キーワード：教員養成，質問，発問，本質的な問い，質問信念尺度，エッセンシャル・クエスチョン

1. はじめに

1.1 教師の発問の重要性と問題点

昨今、21世紀型スキルの必要性が提唱されており、これまでの知識蓄積型から知識応用型の教育への転換が求められている⁽¹⁾。本研究は、21世紀型スキルのなかでも、特に「問題発見能力」が、知識を応用して自ら学ぶ「自律的な学習者」の育成において必須の力になると考えた。児童生徒が「問題発見能力」をつけるには、教師が児童生徒の「問いを立てるスキル」を育てる必要がある。そのためには、まず、教師自身が児童生徒のモデルとなるような質の高い問いかけができなければならない。

しかし、教育現場で発せられる教師の発問の質はそれほど高くないことが、これまでの研究から明らか

になっている。例えば、Gall⁽²⁾は、教師の質問の内、生徒の思考を促す質問は20%であることを指摘している。また、Wragg & Brown⁽³⁾が、教師の発問を1,000以上収集した結果、大半の発問は事実の想起を促す発問であり、児童の高次の思考を促す発問は少なかったことを報告している。さらに、授業における教員の発問を分析したEschahら⁽⁴⁾は、教員の発問の84.5%が、質の低い問いに分類されるとしている。このように、教師の発問の質は高くないことが先行研究から明らかになっている。

1.2 これまでの質問研究の経緯

それでは、これまでに、質問スキルはどのような研究されてきたのであろうか。King^{(5)~(8)}は講義に関する学生の質問スキルと理解度の関係について、数々の

*千葉大学 教育学部 (Faculty of Education, Chiba University)

受付日：2017年10月19日；再受付日：2018年4月28日；採録日：2018年8月13日